



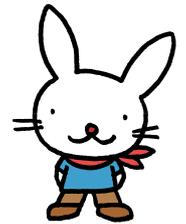
## この号の主な内容

サークル紹介①	
夢人党・ヨット部・あかとんぼ	1
学生による授業科目紹介①	
総合基礎科目・専門科目	2
学生による授業科目紹介②	
学生によるゼミ紹介 専門演習	3
保育実習・教育実習を終えて	
サークル紹介② ラクロス・テニス	4
学生による教員紹介	

# ●●● We Love こと た つ

— 日本福祉大学 子ども発達学部ニュースレター —

第9号 2012年10月16日発行



こんにちは、夢人党です!!

(左上の写真)

心理臨床学科3年 大久保雅弘(おおくぼ まさひろ)

僕たち夢人党は『日本一夢を与え続けるチーム』になるために踊っています。

毎年ひとつ、作品を作って夏の名古屋で開催される『にっぽんど真ん中まつり』に出演しています。テーマを決め、曲や振り付けを決め、衣装や大道具小道具全部作ります。夢人党の今年作品名は『One～世界を繋ぐ唄～』です。いろんな国、いろんな人、いろんな感情が渦巻くこの世界で、誰もが一つの事に夢中になり心動かされる瞬間ってないだろうか?そんな瞬間があったらきっと世界中楽しくなれる!!そんな夢を抱き、この作品を作りました。笑顔いっぱい夢人党ワールドをぜひ楽しんでほしいですね♪

夢人党というサークルでは、お客さんに楽しんでもらおうとメンバーの皆が作品の完成のために協力し、いろんな作業をします。踊りを練習したり衣装を縫ったり、他にもたくさんあります。全員で気持ちを込めた作品が完成し、お客さんにも喜んでもらった時は本当に感動します。大学生にもなってこんな気持ちになれるなんて…。今しか出来ない青春が、ここにある!! さあ踊ろう♪

こんにちは。ヨット部です。

子ども発達学科保育専修2年 松山和仁(まつやま かずひと)

さて、いきなりですが、皆さんはヨットってどんなのか分かりますか?簡単に言うと、ヨットとは風の力だけで走る船の事です。ですから、風がないと走らないし、風が強くなればなるほど、速く走ることが出来ます。これって、とってもエコですよ～!!

さて、2012年はロンドンオリンピックの年でしたね～。なんと!ヨットもオリンピック種目としてちゃんとあるんですよ!!!国際470級というクラスになります。私達ヨット部がどういふ事しているかを紹介したいと思います!

まず、初めに言っておきますが、ヨットは男子も女子もできて、経験がなくてもはじめるんですよ。なんて言っちゃって、私たちはみんな未経験の状態です。ここで!!活動場所は、河和というところの海で活動しています。ここではなんと!!スナメリに会えちゃうことがあります!!そんな大自然の中で私たちは活動しています。こんな感じですよ～。



私は児童文化部あかとんぼというサークルに入っています。 子ども発達学科保育専修2年 吉良沙由里(きら さゆり)

あかとんぼは、あそびグループと公演グループ(人形劇)の2つのグループがあり、1年生～4年生まで100人近くの部員がいます。大学の近くの保育園や小学校、児童館などから依頼を受けて、遊びや人形劇をしています。前期には、「なかよし」という企画が奥田公民館と河和児童館であり、後期には「こどもまつり」という企画を大学祭でやります。この2つが一番大きいイベントであり、子どもたちを呼び、毎年楽しんでもらっています。このほかにも保育所周りや、クリスマス会などもあります。私はこのサークルに入って子どもたちとたくさん関わることができ、とてもよかったと思っています。保育士を目指しているので、子どもと関わることで勉強になることがたくさんあり、いろいろ学ばせてもらっています。これからもたくさん子どもたちと関わりたいと思っています。



# とてもためになるわたしの大学の授業を紹介します

## 言語と文化(スペイン)

子ども発達学科保育専修 2年  
太田百香(おた ももか)

1年で履修するスペイン語の授業では、基本的なスペイン語から、日常で使えるスペイン語を中心に勉強します。例えば、スペインの数字を使ってビンゴゲームをしたり、時計を使って時間を当てたりと、ゲームを通じて授業をしています。ゲーム感覚なので、楽しく学ぶことができ、スペインの歴史も一緒に学ぶことができます。ちょっとしたスペイン語を覚えるだけでも、テレビなどのスペイン語もわかるようになり、英語とはちょっと違った楽しみができます。私がスペイン語を履修した理由は、英語以外の多国語を覚えたかったのと、保育の場面でも役立つと思ったからです。以外に私たちの日常の中にはスペイン語が数多く使われていて、今まで英語だと思っていた言葉もスペイン語だと知ることができました。基本的な言葉だけでも多くの会話ができるようになりました。単位修得は個人の頑張りが必要ですが、楽しく学ぶことが大切だと感じます。興味がある人はスペイン語を履修してみてください。お勧めします。



## 社会科指導法

子ども発達学科初等教育専修 3年  
澤田麻実(さわだ まみ)

この授業の中身としては二つあります。



一つは授業実践がいくつか載っている本を元に、良い点・疑問点などを発表しあい、既成の授業構成を考え直すこと。私はこの授業で、文献などを読み進める際に、書かれていることを鵜呑みにせず自分なりに疑問点を見つける力がついたように思います。

二つ目は、グループに分かれて指導案を作りみんなで模擬授業をやってみることです。指導案作りや教材の準備など大変なことも多いですが、実際に小学生が使っている教科書を使っている授業を考えたり、プロジェクターなどの機器を利用したりもするので、現場に出た際に活用できる経験が得られます。そのため、達成感や今の自分たちに足りない部分が見えてきて、とても意義のある時間になると思います。

私は社会が苦手でしたが、年号や人物の名前を覚えるような授業ではないので、授業を考える過程で発見やひらめきが多々あり、とても楽しかったです。

## こころとからだ 心理臨床学科 2年 川崎千優(かわさき ちひろ)



この講義は大学のオリエンテーションの意味を持っています。基本的な生活のあり方、自分自身のこころとからだ、セクシュアリティ、ジェンダー、健康と病などと向き合い、生きること、働くこと、学ぶこと、自立することについて考える講義です。

大学生活を送る上で、新しい環境、生活において様々な不安を抱えることと思います。私も入学当初、親元を離れての一人暮らし、アルバイト、サークル等、新しい環境での生活に不安を感じました。しかし、こころとからだを受講し、一人暮らしや食生活、健康についての不安が解消されました。そして、自分自身のこころと身体について深く向き合い考えることができました。

こころとからだは、リレー形式の講義であることが特徴です。キーワードによって毎回ゲスト講師を招いて講義を行うため、新鮮味が感じられる楽しい授業です。教員と学生との相互交流もあるので、リラックスした気持ちで受けられると思います。

## アダプテッドスポーツⅡ 子ども発達学科保育専修3年 吉井美穂(よしい みほ)

アダプテッドスポーツⅡでは、障害者・児スポーツについて学び、初級障害者スポーツ指導員の資格取得も目指します。講義の内容は、実践的な活動が多く、既存のスポーツをわかりやすく簡単にアレンジされたものや、障害者のために作られたオリジナルのスポーツを実際に体験します。また、それらの体験を通し、自分たちで指導案を作成し、実際に指導もしてみます。普段私たちがやっているスポーツとは少し違ったところがあるので、難しく感じることもあります。しかし、目が見えないことによって音を敏感に感じたり、足が不自由なことなどで上半身をいかに上手に使うか工夫したりなど、普段は気にしていないことを意識しながらスポーツをするので、いつもとは違ったスポーツの楽しさがあります。



障害児のスポーツでは、スポーツと言うより、身体を動かす面白さや面白さを感じることが基本なので、私たちも子どもにかえり、講義だということを忘れてしまうくらい楽しみながら学ぶことができます。

## 保育計画論

子ども発達学科保育専修3年 森田実里(もりた みさと)

保育計画論の講義では、指導計画(日案)の書き方や0～6歳の子どもの発達過程について学ぶことができます。初めて指導計画を書くので、どこに何を書けばいいかわからないところから始まります。はじめはきちんと書けるようになるのか不安でした。しかし、この講義を受けたことで、指導計画の作成手順や書き方のポイントを知ることができました。手順やポイントを学び、理解することで不安よりもやってみよう、書いてみようという気持ちが大きくなりました。また、子どもの発達過程をきちんと学んでおくことで、一人ひとりの発達課題を読み取ることができるようになり、保育のねらいがわかるようになりました。指導計画のねらいを考えるうえで子どもの姿をよく観察しておくことと発達過程を理解しておくことが大切です。その基礎をしっかりと時間をかけて教えてくれるのでとても勉強になりました。

※保育計画論は2010年度入学生まで開講。2011年度以降入学生は、科目名称が保育課程論に変更し開講しています。

## カウンセリング論 心理臨床学科3年 竹島史織(たけしま しおり)

カウンセリング論の講義では、カウンセリングの基本的な知識や技法、心理検査の方法などの他に、発達障害について事例を用いながら学びます。また、人生の中の思春期に焦点を当て、思春期に起こる様々な葛藤や不適応状態について、カウンセラーがどのように関わっていく必要があるのかを考えていきます。

私がこの授業で学んだことは、不安や悩みを抱えているクライアントに対してカウンセラーは、薬などを使って和らげるのではなく、不安と一緒に共有することが最も大切であるということです。人は自分の身に生じていることを感じ取って意味づけることが自分自身ではできないことがあります。だからこそ、対話的交流の場であるカウンセリングを通じてクライアントが自己理解をし、自分自身で不安や悩みを解決しようという気持ちを手助けすることがカウンセラーには求められます。

そして、カウンセリングにとって「聴く」という概念はとても大切なことであると知ったので、皆さんもぜひカウンセリング論の講義を受けて、その大切さを実感してみてください。





発達心理学概論では、お母さんのお腹の中にいる胎生期から赤ちゃん時代、そして保育所、幼稚園時代、小学校、中学校、高校、青年期、さらには大人から高齢者まで、どのようにこころが形成されていくのかについて「自我の発達」過程を通して学んでいきます。中でも特に、子どもの行動の裏に潜む“子どものこころ”について深く学んでいきます。

例えば、生後7か月頃になると人見知りが始まります。これは周囲の人への興味が広がるとともに、社会性が芽生えてきて、自分と自分以外の人、見慣れた家族とそれ以外の人との違いがわかるようになってきたしるしです。つまり、子どもの人見知りは、身近な人とのつながりが深まった証拠なんです。

この授業を通しこころの形成の過程を学んでいくうえで、人間を見る視野を広げることが出来ました。意味のないと思っていた行動の裏には、成長するための大事な意味あり、それを理解していくことが、こころを知る第一歩だと思っています。

## 私のゼミを紹介します

### 小林信次ゼミ

子ども発達学科初等教育専修3年 岩永修也(いわなが なおや)

前期の活動の柱は、『こんな実践出来たらいいな』(愛知民教連)を扱いました。様々な実践に触れ、それらの実践に対して分析して意見を言い合うことでした。初めは、お互いに言い合うということまではいかなかった。人の意見を聞き、それに対して何かをふくらませて言うということではなく、一人ずつコメントを出して終わってしまうことが多かったと思います。その後、4つのグループに分かれ、分析担当する実践を決めました。そしてグループごとに実践をまとめ、発表することにしました。しかし、発表する側と発表を聞く側でその実践への関心度に差があるため、全体で十分には深め合うことができなかったように思います。

また、前期では『こんな実践出来たらいいな』を分析し合うだけではなく、グループで「教師の実態」、「学校の実態」、「学生の実態」、「子どもの実態」から一つ選び研究しました。グループによっては、教師や小学校や大学でアンケートをとって発表しました。グループでまとめたものを最後に個人でまとめました。前期のゼミの最後には、ゼミのメンバーで昼食



をとったり、恋愛観について語ったり、模擬授業、教員採用試験の面接練習、試験問題を行い有意義なゼミ活動を終えました。

### 江口昇勇ゼミ 心理臨床学科4年 稲垣百花(いながき ももか)

私たちのゼミは「将来、対人援助を行うために、自分自身を深く知る」というコンセプトのもと活動しています。エゴグラムや夢分析、コラージュ療法などの様々な心理テスト、心理療法などを実際に体験することで、私たちは日々、自分自身と向き合っています。また、私たちは週に1回母子生活支援施設でボランティアを行い、対人援助の技術を実践的に学んでいます。ボランティアでは、子どもからひどい言葉を言われて傷ついたり、子どもとのかかわりで悩んだりすることがあります。学生は、子どもの気持ちを理解するため、また、子どもとのかかわりの中で起こる様々な気持ちを整理するため、子どもとの関わりを詳細に記録し、ゼミの中で話合っ、子ども自身を受け止め、より深い関わりを持てるように、日々試行錯誤しながら活動を続けています。私たちのゼミには臨床心理士、児童養護施設の職員など、対人援助職を目指す学生が多く在籍しています。将来の夢のために、私たちは自分自身と向き合いながら、日々自己研鑽をしています。



特別支援教育論では、教育の体制・教育現場等の変革の状況を、障害児教育の発展過程をたどりながら、特別支援教育の本質や原理、教育課程、各種障害と教育方法、特別支援学校・学級の指導・支援、自立活動等について学びました。特殊教育から特別支援教育へ、さらに教育の在り方についての議論が活発になっている現代では、特別支援教育を学ぶにあたって基礎となるとても大切な講義でした。講義中は、先生の話聞きながら配布されたプリントの空白に語句を埋めて進めていくので、重要語句等をしっかりと身につけることもできました。私はこの講義を受講し、特別支援教育の基礎的な体系や各種障害とその指導・支援の方法について理解でき、後の実践的な講義にも役立つものとなりました。特別支援学校教諭を目指す私にとって必要不可欠な知識を身につけることができたと感じています。

### 遠藤由美ゼミ 子ども発達学科保育専修4年 星香菜美(ほし かなみ)



遠藤ゼミの4年ゼミでは、昨年からの施設や児童館に見学に行ったり、子どもたちに絵本を贈ったりしました。施設見学では、大型児童館、児童養護施設、ファミリーホーム、障害児通園施設、児童相談所、一時保護所、子育て支援センター、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、少年院に行きました。そこでの見学や交流を通して学び感じた様々なことをみんなで共有していきました。それぞれが抱える不安や問題、子どもや保護者に向き合った考え方や施設設備等、多くを知っていくなかで自分たちが親子や地域と関わる上で、何が求められるのか、ゼミ活動と大学での学びを今後どう生かしていけるかを深く考えさせられた活動となりました。

### 初等教育専修3年 夏目真行(なつめ まさゆき)

3年生のゼミでは、夏からデンマークに留学する大学院生の話を聞いたり、教育福祉についてのレポートを作成、施設実習に行った同じゼミ生の話を聞いたりしました。まだ施設などに行き現場での活動はしていませんが、たくさんの人たちの話を聞くことで、その人が経験したことや、現場でしか感じられないことなど様々なことを共有することができました。また、話を聞いたり、レポートを作成することによって、今までより福祉に対する視野が広がりより深い学びをみんなすることができました。ゼミのみんなが自分と違う視点から子どもたちを支援していきたいと思えることがわかり、一番印象に残りました。そして、自分も負けられないと思える、「やる気」をもらうことができたゼミの活動だったと思います。

### 山田麻紗子ゼミ 心理臨床学科4年 井口拓也(いぐち たくや)

山田ゼミでは少年犯罪について研究をしています。未成年者による、殺人や傷害事件がメディアによって取り上げられています。神戸児童連続殺人事件や光市母子殺人事件などの、少年とは思えない残酷な手口による事件は多くの人を知っているでしょう。このような少年について、「目立たない子だった」とか「良い子だった」という周囲の人の発言を聞くと、何故そのような事件が起こったのか理解できません。この少年が事件を起こすきっかけになった事はいったい何なのか。少年の持つ資質や、少年を取り巻く環境がどのようなものであったかなどの背景について調べています。本人の人格に大きな問題がある場合、ささいな摩擦や問題でも犯罪を犯してしまう危険はあります。反対に、人格的に問題がない人でも、周囲の状況によっては、犯罪者になり得るからです。また、少年が犯罪を犯した場合、成人と比較した時の対応の異なりについても学習しています。



## 保育実習・教育実習を終えて

教育実習(小学校) 子ども発達学科初等教育専修4年 太田真生  
(おおた まさお)



私は、安城市立祥南小学校の4年1組で4週間実習させていただきました。この4週間では、国語、算数、社会、道徳の授業を行いました。他にも、2週間目から朝の会や帰りの会を任せてもらいました。初めは、緊張したり、子どもと関わりあったりすることが大変でした。一番苦労したのは、子どもの名前と顔を覚えることでした。子どもたちは、毎日のように、クイズ形式で自分の名前を聞いてきました。そこで、ちゃんと言えるととても喜んでくれました。一か月という短い期間のなかで、教材研究や教科内容研究をするのはとても大変で、根気のいる作業でした。今、目の前にいる子どもたちが理解できるように授業をするためには、何が必要になるのか、どんな工夫があるのかを毎日の授業観察や参加の中から考えることがとても大切であると分かりました。授業実習や研究授業をしていく中で、気づいたことは子どもが活躍できる場を設けることが大切だと気づくことができました。一か月の教育実習で大切にできたことがありました。それは、実習校の校長先生の講話での「一見は一験にしかず」です。教育実習では、一つ一つの経験を自分のものにしていけるように努力することが一番大切だと感じました。本当に一か月という期間は、長いようであつという間に過ぎていきました。この経験を自分の糧にして、これから頑張っていきたいです。

### 保育実習(施設)

子ども発達学科保育専修3年 小田ひとみ(おだ ひとみ)

私は、岐阜県長良森にある入所の児童養護施設、日本児童育成団に実習に行きました。たった10日間の実習でしたが、多くのことを学ぶことが出来ました。児童養護施設への入所理由はネグレクト、身体的虐待など、さまざまな理由があります。そんな環境の中で育った子どもたちは、かまってほしい、自分だけを見てほしいという気持ちがとても強いと感じました。保育者はそれを読み取り、理解し、子どもたちの甘えを受け止め、場面にあった対応をしました。このような日常の繰り返しのなかで、子どもたちは保育者との信頼関係を築いていくのだと感じました。児童養護施設は子どもたちの大切な帰る場所であり、居場所なのです。子どもたちの小さな変化やサインを保育者は読み取り、子どもと向き合っていくことが大切なのだと感じました。今回の実習を終えて、学んだことを生かしさらに成長していきたいと思っています。

## わたしたちの先生です(教員紹介)

伊藤修毅(いとう なおき) 心理臨床学科助教



私たちのゼミの伊藤修毅先生の紹介をします。最初、伊藤先生の名前「修毅」はなんと読むのかわかりませんでした。そしてパソコンで一発変換はできません。そんな伊藤先生のプライベートは未知の世界ですが、旅行が好きということで日本だけでなく海外も飛びまわっているそうです。「〇〇について教えてください！」と質問すると、それに関連する文献をずらっと紹介して下さいます。障害児者に関する専門家、「歩く専門書」と言っても過言ではないと思います。伊藤先生は様々な学習会や講演会を紹介してくださるので、ゼミ生で参加する機会が多くなりました。その学習会での出会いもあり、人とのつながりを持つようになりました。伊藤先生は顔が広いと思います。お酒とたばこが嫌いな伊藤先生ですが、ゼミの食事会では熱く語って、食事会さえも学習の場になっています。学生のことを一番考えてくれる、すごい先生だと思います。【心理臨床学科3年 中野まこ(なかの まこ)】

## サークルの仲間の中で

ラクロス部 心理臨床学科2年 大島淳平(おおしま じゅんぺい)



私は、大学に入り初めてラクロスというスポーツを知りました。日福のラクロス部は、伝統があり活気のある部活という

ことで有名でしたが、自分にはついていけるかという心配しかありませんでした。しかし、先輩方も優しく、後輩思いでわかりやすく指導していただいたおかげで、2年になり東海ユースの代表に選ばれることができました。そして、2012年7月にあった全国ユース選手権のメンバーにも選ばれ、福岡の雁ノ巣で行われたユース選手権に東海の代表として行ってきました。ユース選手権は2泊3日で行われ、初日と2日目で全国の全てのユースチームと予選リーグで試合をしました。予選の結果は、4位で最終日に行われた順位決定戦で東北ユースに2-1で負けて、5位ということになりました。私はこのユース選手権を通して、他地区の選手のプレーを肌で感じ、さらなる高みを目指し、日々の練習に励んでいこうと思いました。

### I部硬式テニス部

子ども発達学科初等教育専修3年 丹羽友実(にわ とみ)

私が所属しているI部硬式テニス部は、テニスが大好きでとても一生懸命な人が集まっている部活です。私は一般でこの大学に入学しましたが、テニス部はスポーツ推薦で入ってきた部員がほとんどでした。正直、入ったばかりの頃、練習はとても厳しかったです。自分よりレベルが高い中での練習に、逃げ出したくなることも何度もありました。それでもここまで続けていくことができたのは、辛いことを一緒に乗り越えてきた仲間がいたからだと思います。私にとってこの仲間の存在はすごく大きなものでした。授業前の朝練、授業後の練習、休日の練習、大会。一番しんどい時、いつも近くにいたのはテニス部の仲間でした。逆に、一番楽しい時、一緒にいるのもテニス部でした。何でもないことでみんなで笑い、悔しい時はみんなで泣き、そんな、すべてを共感し合えるテニス部が、私は大好きです。大学生活、忘れられない瞬間をこの仲間と過ごすことができて本当によかったです。



山本秀人(やまもと ひでと) 子ども発達学科教授

山本秀人先生は、1人ひとりのことをしっかり見てくれていて、その時々に応じて私達のことを考えて助言や指導をしてくれる先生です。どんな話でも笑顔で聞いてくれて、「メリハリをつけて取り組むことが大切だよ」と、私達が息詰まった時に声をかけてくれます。そんな優しい一面もありますが、やる時はやるというように、私達に真剣に向き合って指導して下さったり、1人ではなく、みんなで話し合っていくことを大切にしてくださったことで、去年ただの集団だったゼミも、何でも話し合うことができ、共感し、色々なことを一緒に乗り越えられる仲間となることができました。それぞれの個性が重なり合っていて、受け止められてできるのが集団であって、誰よりも先に1人ひとりを受け入れてくれたのが山本秀人先生であったと思っています。これだけではなく、先生から学んだことはたくさんあります。私自身、目指すところは保育士ではありますが、先生のような先生になりたいと思う、とても尊敬できる先生です。【子ども発達学科保育専修4年 川村江利奈(かわむら えりな)】

